



学校法人聖リゴリオ学園

すわせいぼ幼稚園

HP : www.liguorio-gakuen.ac.jp/suwa/



TEL: 0266-52-2339

2026年

(令和8年)

ひかりのこ

6・7月

輝く青葉に恵みを感じて ～ 今、この時を大切に ～

園長 野田安則

先日、長野県と山梨県の司祭の集まりが軽井沢で開催されました。青葉、若葉の美しい季節で、光を受けて輝く木々の緑を目にしていると、カトリック聖歌の「青葉、若葉に風かおりて」という歌詞が自然と思い出されました（352番、あおばわかばに）。

その集まりのミサの説教で、司教様が「クロノス」と「カイロス」という二つの「時」について話してくださいました（いずれもギリシア語）。クロノスとは、時計で測ることのできる時間。朝から昼へ、昼から夕方へ、昨日から今日へと流れていく時間です。一方、カイロスとは、神さまの恵みを感じる時、その時が特別な意味をもって心に受けとめられる時です。軽井沢で見た青葉も、季節の移り変わりとして見れば、クロノスの中の出来事ですが、若葉を渡る風に心を動かされ、「神さまのいのちが、今ここにも働いている」と感じたその時は、恵みの時、カイロスであったと言えます。

子どもたちの成長にも、同じような恵みの時があるように思います。幼稚園での日々は、登園し、あいさつをし、身支度をし、遊び、お仕事をし、友だちと関わり、また家へ帰っていく、毎日の繰り返しのように見えることがあります。しかし、その中で、子どもが初めて自分で靴をそろえられた時、友だちにやさしいことばをかけた時、できなかったことにもう一度取り組んだ時、泣いていた子が

少し安心した表情を見せた時。そのような時は、ただ流れていく時間ではなくります。そこには、子どもの成長があり、心の動きがあり、神さまからいただいたいのちの輝きがあります。

教皇ヨハネ二十三世は、ラテン語で age quod agis（アジェ・クオッド・アジス）という言葉大切にしていました。直訳すれば、「あなたが今していることをしなさい」という意味です。これは、ただ目の前のことを片づけるということではありません。今、自分に与えられているこの時を、心を込めて、誠実に生きるということです。

私たちは、今いる場所で大切な務めをいただいています。家庭で、幼稚園で、子どもたちと過ごす日々の中で、私たちはそれぞれの「時」の中に置かれています。その時を、ただ過ぎ去るものとしてではなく、神さまから与えられた時として受けとめるとき、日常の時間は恵みの時となっていきます。

若葉を渡る風のように、神さまの働きは、いつも目に見えるとは限りません。しかし、子どもたちの中には、確かに成長の力が働いています。その力を信じ、見守り、必要な時に手を差し伸べながら、今この時を大切に歩んでいきたいと思います。



給食の準備からみえてきたもの



保育主任：山中 乃里子



新学期から2ヶ月が過ぎようとしています。入園当初不安な様子のC組さんは少しずつ園生活に慣れ始め笑顔が多く見られています。クラス替えのあったB組さんは、新しいクラスの先生やお友だちと仲良く遊ぶ姿があります。A組さんは、最長学年の自覚が少しずつ芽生え、年下の子のお世話や横割り、様々な活動など意欲的に取り組んでいます。そのような子たちですが、園生活の中で楽しみなことの一つは給食のようです。登園して身の回りの支度を済ませ教室に入ると、ホワイトボードに書いてある給食のメニューを確認する子が多いです。「きょうは、なにかな？」



「あっ、さかなだ！」等と嬉しそうな声がしています。ひらがなを覚えたての子は、一字一字ゆっくり読んでいます。給食の支度の時間になると、C組さんも一人で靴の中から道具を出して準備を始めます。近くにいるA組さんがエプロンを着るサポートをそっとしてくれています。配膳も各自行います。自分の学年が呼ばれると我一番とばかりに並びに来ます。A、B組さんは自分の食べる量を先生に伝えて盛ってもらおうと、周りのお友だちや棚にぶつからないようにゆっくり丁寧に運んでいきます。味噌汁など特にこぼれそうなものはさらに真剣です。もしこぼれてしまっても、気がついたA、B組



さんたちが雑巾を持ってきて拭いています。食事の準備の時間だけでも「メニューを読む、理解する」「身支度をやる」「自分の食べられる量を伝える」「体をコントロールして運ぶ」「周りのお友だちの事を配慮する」ことをしていると分かってきます。自分でできる力、自分でやろうとする力、周りのお友だち協力し合う力が毎日の繰り返しの中で育っています。そんな姿が頼もしく思います。



せんせいのおすすめえほん



教諭：中村 里佳



筒井頼子:作 林明子:絵 (こどものとも傑作集)

先生のおススメする絵本は…「はじめてのおつかい」です。

お母さんに、はじめておつかいを頼まれた“みーちゃん”のお話。

ハラハラドキドキ・ホッコリ♥と主人公“みーちゃん”の気分になれる本です。



モンテッソーリのひろば



教諭：山田麻里子

お子さんの様子を見ているとある日突然、沢山喋り出したり、文字を書く事や読む事に興味を示したり、なんでも数を数えていたり、ある一つの事を何日も繰り返し行っている事はありませんか？

モンテッソーリ 教育ではこの時期を「敏感期」と言い、子どもが自分で人格の基礎をつくる上でとても重要な時期となります。ある特定の感受性だけにスポットライトが当たったかのように非常に敏感になる為、「敏感期」と呼ばれます。

かんがる一むに遊びに来てくれているお子さんを見ていると、話し言葉の敏感期の子、小さい物を集めたい、つまみたい敏感期の子等、それぞれです。特に0-3歳までの子どもは秩序の敏感期が強く、いつもの場所、順番、習慣、自分でやりたいをととても大切にします。例えば、ご飯を食べる時、いつもは前の席にお母さんが座っているのに、今日は違う人が座っていたり、、、お散歩に行くのにいつもと違うルートで行ったり、、、いつもは自分で靴を履いているのに、時間がないから急に大人が履かせてしまったり、、、いつもと違う事に対して違和感を感じ、嫌がります。秩序の敏感期は大人には少し理解し難い事ですが、この時期の子どもにとって「いつもと同じ」は安心でき、社会に適應して行くのにとても大切な事です。

大人でも初めての環境、初めてやる事は少し緊張したり不安に思ったりしますよね？子どもも同じです。

敏感期にはいくつか種類があり、子どもによって訪れるタイミングが違います。

敏感期の種類…

「言語の敏感期」「数の敏感期」「運動の敏感期」「秩序の敏感期」「感覚の洗練の敏感期」「社会性の敏感期」「小さい物への敏感期」等々、、、

他にもお子さんの様子を見て、「これは〇〇の敏感期かしら？」と思う事があるかもしれません。

もしかしたら、今の時期は「虫への敏感期」「お友達のお世話をする敏感期」が来ている子もいるのでは、、、

子ども一人ひとりの敏感期を大切に、環境を用意してあげ、その敏感期を一緒に楽しむといいですね♪



6・7月の予定 (予定は変更になる場合があります)

6月	1日：衣替え・耳鼻科健診	2日：内科健診	3日：歯科健診	8日：避難訓練・英語（年長）
	9日：眼科健診・保育参観①	10日：みそ作り体験（年長）・園庭開放	15日：英語（年長）・保育参観②	
	16日：人権擁護紙芝居	17日：歯みがき指導（年長）	19日：保育参観③	
	22日：プール・水遊び開始	26日：6月誕生会	29日：交通安全教室	
7月	1日：避難訓練	6日：英語参観（年長）	15日：クラス懇談会	17日：7月誕生会
	23日：1学期終業式・保護者窓ふき	24日：夏のお楽しみ保育	27日～8月19日：夏休み	